

令和5年度 町政地区懇談会②(対象地区 浜)

■日 時 令和5年6月9日(金) 19時30分～20時38分

■会 場 浜公民館

■懇談会参加者 19名

■開会～説明

- (1)町長挨拶
- (2)出席者紹介(副町長)
- (3)予算概要説明(総務課長)
- (4)重点施策説明(総務課長・企画調整課長)

■意見交換

Q1

防災公園整備事業で防災公園というもので、何年か前にできますよってというのがあったんですけど、進んでいるのかどうかというかが分からない。できるのはいつ頃なのか。

A(町長)

防災公園の関係ですけど、今日のご説明にはないわけでございます。防災公園については、ご存知だと思いますけど、峰温泉から逆川への途中の旧花泉園跡地を町が取得をしまして、そこを伊豆縦貫発生土を使って埋めて、その上に防災公園に作ろうという計画がございます。実はこれは規模が大きいものですから、計画段階の開発行為など、いろんな申請が必要になっております。それから、環境アセスメントも必要になってきております。そのような形で調査事業を進めている段階で、工事に入っていないってということもあります。今後、基本的な調査が終わりますと、国・国土交通省との発生土の対策をやらなきゃなりませんので、その事業との打ち合わせ、その後に発生土の埋め立てが始まりまして、その後に防災公園ができるということになりました。

まだ完成時期がはっきり言えないわけでございますけど、計画としては着々と進めている状況でございます。

平常時は防災公園でも、グラウンド的な使い方もできるかと思えますし、将来的には消防の河津分署の移転なんかも考えながら、今後、計画をしたいなと思っております。そういうことで着々と進んでおりますが、計画等の調査が進んでないってことで、今予算的には出ておりませんが、決まれば仕事を相談しながらやっていかなきゃならないと思っております。

それから、当時はドクターヘリと防災ヘリのことを作るということでございました。今年4月1日からですね、バガテル公園の大型バスの駐車場を、ドクターヘリの発着場とし

て使っております。元々ですね、防災公園の中に、ドクターヘリと防災ヘリ、災害時のヘリポートを作る予定で準備しているわけですが、防災ヘリだとなかなか広い場所がないってこともありますし、使う頻度が災害のとき以外というのはなかなか使わないものですから、固定するんじゃなくて、普段はドクターヘリか別の場所に使うことによって、防災ヘリのヘリポートは、それ以降十分な設備しなくていいのかなって形の中で、普段の災害がない時の使い方に使っていたりとか、万が一の時の多様面って言いますか、使えるようなことで考えておりますので、防災ヘリポートについては、予定はしておりますけど、この4月からはバガテル公園の駐車場で、ドクターヘリも使っております。皆さんご協力願いたいと思っております。以上でございます。

Q2

旧南中跡地にクリエイトさんに貸すということですが、ウェルシアさんと同じようなところができると思うんですね。競合するっていうことを町がどこまで考えているのか。色々複合施設を中心に考えた最終的な結果が、クリエイトさんということになったっていうのは、なんとなく、もったいない、寂しい、そんな気持ちがあるんですよ。だから、街の方として、クリエイトが来て街の賑わいが、「それでよし、できる」という自信が、どこまであるのかということを知りたいんです。

A(町長)

旧跡地の問題です。先ほど課長の方から説明があったように、40年間にわたって、塩漬けの状態って言いますか、通用として、それで、元々、旧南中跡地については、前の、近隣商業地域という形の中で、都市計画の中でも、賑わいの創出のところであったりとか、特に、事業用地としての使い方が、元々決まっていたところですけど、いろんな過程を経てですね、今は事業用としても当事者が出たりという形でございます。それで、これまで、地元の方たちにも文句ないですからですね、なかなか決まらないっていう状況があります。そういう中で町としては、これまで公設公営ですとか、公設民営も考えてきましたけども、これまでの状況を考えた中で、民設民営で特に、運営面ですとかライフサイクルコスト、最後の部分まで考えた時に、なかなか公共的な部分ですと後の始末が大変だった。これまで40年の経緯を踏まえた中で、民設民営が賑わいの創出の中では適当であろうということで、最終的に選定をいたしました。特に、この土地はクリエイトさんと直接契約するのではなくて、大和リースさんと契約いたします。その30年間、大和リースさんが買ってくれることになります。それで町には、賃料が毎年入ります。そして、運営についても民間ですのでリスクはございません。仮にクリエイトさんが事情によって運営できなくなった場合でも、大和リースさんが代替も考えてくれるようなことになっておりますので、そういう面でも還元するのかなと思いますので、そういう面では、今回の民設民営の中で大和リースさんが参加してくれたことは大変私は良かったことだと思っていま

す。ただ、先ほどおっしゃったように、同業者がいるわけですが、そういう上で、大和リースさんが出てくれていると思いますけど、民間事業者ですので、当然採算が合わなければ出てこないわけです。

町の現状を考えると40年前とは違って、人口はどんどん減少して、これからも減少する傾向がございます。そして買い物形態も、昔とは違ってだいぶ変わってきていると思います。皆さんの生活を見てもらえばわかると思うんですけども、当然、地元の商品を買うこともありますし、場合によっては町外に車で出かけるってこともありますし、中には通販で買ったとか、形も変わってくるものですから、今回の計画によって、これまで町外で買い物にいた人たちが町内で買い物をするとか、逆に町外からも、特に河津は、この辺りではコンパクトシティと言われて、集約されて買い物しやすいという状況も聞いておりますので、外からも来ていただいたりとか、移住・定住も含めた関係人口の人たちも、暮らしやすいとことで住んでいただけたらなって思いもあって、確かにいろんな方に影響あるかもしれませんが、長い目で見れば町のリスクも少ない、あるいは町民の利便性も高められるなど多くの利点もあって、駅前の方々の都市計画のマスタープランで言っているような賑わいの施設として成り立つのではないのかということで、町としては進めていて、できれば今月中に契約をしたいなと思っております。以上でございます。

Q3

バガテル公園についてなんですが、今まで町の管理のもとでバガテル公園は運営したわけですが、毎年、残念ながら何千万円の赤字を計上ということで、今回、共立ソリューションズさんが、指定管理で運営していただくと。この概要だけ見ていると、ただ、バラ園の入園料がいくら、シーズンがフラワーシーズン・サマーシーズンごとの期間、分かりませんが、これだけで運営というのは成り立つのか、今まで赤字だった場所が、このバラ園だけで維持ができるのか。色々、民間ですからこの先々も考えてはいると思うんですけども、町としても民間がどういう考えを持っているのか、という方向性をも話し合っていて先が見えるか、町民に分かるようにしていただければなと思うんですけども、これだけだと、本当にバガテル公園を民間に委託したとしても、不安ではないですね。もっとなんか方向性がある、もっと共立さんはいろんなこと考えているのか、そういうのをちょっと町民にも知りたいなと思います。

A(町長)

私の方から基本的なことだけお話をした後、担当の方から、今度の指定管理についても、申請書というものが出来て審査した上で、指定管理にしておりますので、その内容について分かっている範囲内で担当課長からお答えさせていただきます。

バガテル公園は、経営が大変厳しい状況があったわけでございます。それがコロナにな

って更に厳しい状況があって、このままで行くと大変なことになるなということで、まず考えてことは、経済的な負担を少しでも減らそうっていうことでございます。特に大きいのかかっているのが、バラのない時期にいかにお客様を呼ぶかということ、当初は借地であったということが負担となっています。元々、約1000万円、毎年払わなくては行けない、当時買っていけばそういうことはなかったんですけど、町営施設として借地で始まったということでございます。それが20年間続いたわけですので、2億円のお金が負担としてかかっているところございます。そういう中で今のところはこの町が、改革をしまして、町民の方の利用は大変増えました。私も町民の方たちに、利用してくださいよって形では呼びかけて、大変町民の方の利用が増えてまいりました。

ただ営業施設として、町営でも赤字というのは問題があると思います。そういう中で選んだのは、指定管理制度を活用して、少しでも負担を軽くしていこうってことでございます。今回は3カ年の契約の中で、それ以上の更新についてはまた問題になると思います。とりあえず3カ年については、決まった額で運営していただけるってことができたものから、その面では少し安心できるのかなと。

ただ今まで通りでは、営業費用等の問題は解消されないわけでございますので、当然会社の努力、あるいは町との関係も続いていかないと解決できないと思います。そういうことも含めて、申請書の中に数々のことが提案されておりますので、それについて今後、協議をしながらやっていけば、改善されていくのかなと思いますけど、そんなことで進めていきたいなと思っております。では担当課長、分かる範囲でお願いします。

(企画調整課長)

先ほど町長が申しました通り、こちらに企業からのプレゼンテーション等で色々な案をいただいております。ただ決定した時期が少し遅かったものですから、時間も厳しくなっています。そして1番、大きい点につきましては公園長もそうですけども、広報担当もいるということで、公園長と広報の担当、そして従業員というような形で行っています。そして、リゾートホテル等運営しておりますので、観光事業者のエージェントとの繋がりもありますので、そのようなことも活用していく。またSNSでの発信について、毎回更新をさせていただいて、そういった形の検討もする。各種イベントについても、企画をしているようでございます。フォトイベントなどを色々、企画をしているところでございます。そちらにつきましては、春バラのイベントには間に合わないかなという話は聞いておりますけども、秋バラからのイベントについて、町民の方にも公表していきたいという風に思っております。

あと東京の大学と、一緒に行っている有機水耕栽培というのが、確立がされてきているということで、それも活用しながら物販・商品の販売も含めて、来ていただいた入場料だけではなくて、販売費用の面での費用も、主に考えているところでございます。そういった形で、一応3年間、指定管理ということでやらせていただきまして、その間、全部任せ

ではなくて町も一緒に協議をした中で、お客さんが付くように進めていければなという風に思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

Q4

今の件で追加確認したいんですが、スライドの19ページに4,500万円となっていて、これがこの3年以内についてもので、その以降は再契約等でどうなっていくかは分からないという認識でいいでしょうか。

A(企画調整課長)

年間の指定管理料につきましては、3,000万円が業者さんに対して費用がございます。土地は、借地が結構ありますので、そちらに1,000万円支払っているということでございます。町民利用者の負担金につきましては、1人300円、町が利用者に対応するという計画になっていますので、そちらの費用について利用者が多くなりますと、出てくるかなというところでございます。

他にシャトルバスの運行費用と施設火災保険費があり、緊急修繕費につきましては、長い時間経っている施設もありますので、老朽化とかそういったものもあります。一定額以上の修繕につきまして町が持つというような計画になっておりますので、その辺があると、やはりいくらか増えていうこと。

約3年間は1年あたりこのくらいの費用で賄えるかなと思っています。それ以降につきましては、先ほどおっしゃられた通り再契約などになってくるという風に思います。

Q5

教育、福祉、インフラ整備についてとても熱心で、よくやられていると思うんですけども、雇用を伴う観光とかを作るとか作らないとかっていう、経済対策で何かありましたら教えていただけませんか。

A(町長)

経済対策ということだと思います。経済対策というと幅広いものですから、とりあえず目に見える形のソフト事業で、説明したいと思っております。

私になって平成29年度でございますけど、ソフト事業としては、町商工会のあのプレミアム商品券ですとか工事券を発行しました。発行額は約1000万円でございます。それから経済対策として、1000万円以下でございますけど、ホームページの作成ですとかリニューアル等の実施、集客に取り組む小売業者に対して補助金制度を作って応募したりしております。また、木材を使った住宅建設を促進しまして、定住環境の充実と地域経済の進歩のために、事業補助金などを作りまして、町内事業者への発注機会の拡大を図りました。

た。

平成 30 年度につきましては、1000 万以上の経済対策事業はございませんが、平成 29 年度と同様な、事業を行いました。令和元年も同様でございます。

令和 2 年度ですけど、この時からコロナの関係もだいぶ入ってきております。そういう中で、令和 2 年度は、県の新型コロナウイルスの感染症関連補助制度を活用しまして、町内の宿泊業、飲食業及び観光施設を運営している事業者に対し支援金や、町内の小規模商工業者を支援するための支援補助金ですとか、商品券発行事業とかを実施したところでございます。

令和 3 年度も、コロナ関係のものでございます。業績が悪化しております商業者を支援するために持続化補助金ですとか、商品券の発行事業も行いました。令和 4 年度につきましては、皆さんご存知のように国の経済対策という形で、国からご協力いただきまして、ガソリン券の発行事業なども行いました。そういうことで、令和 4 年度まで私の任期の間に行った、目に見えるソフト事業でございます。

それから、ご質問の中では特になかったんですけど、国県の税金の関係を回答してよろしいでしょうか。平成 29 年度でございますけど、国、県の補助金は 1 億 5508 万 8000 円でございます。平成 30 年度につきましては、1 億 4796 万 1000 円。令和元年度が、1 億 6184 万 8000 円。令和 2 年度が、12 億 1399 万 5000 円。この時に給付金が国から一律に皆さんに払われたもので、それが約 7 億円くらいあったものですから、急に 12 億って形になりましたけど、コロナの関係で令和 2 年度は 12 億 1399 万 5000 円でございます。令和 3 年度は、5 億 4985 万 5000 円。令和 4 年度は、5 億 1250 万円。これは直接国から、補助金ですとか。

それで実は目に見えない形で、最近特に町が活用しているのは起債事業、起債は借金で補助金ではないんですけど、交付税で補填される事業でございます。これが大変大きくて、先ほど担当の方からありましたが、交付税が 7 割ある制度を使っております。それが過疎債であったり防災関係のものであって、それが補助金に代わる制度として大きいものです。特に河津町には、伊豆今井浜病院でございまして、1 億数千万円、町が補助しておりますけど、この 7 割が国から交付税処置されているものを病院の方に合わせて交付しているということが大きいんですけど、その大部分が交付税で処置をされているもので対応しております。現在は産業振興という形で、特に観光事業に関して観光庁から色々もらうような施策を考えてやっております。E-BIKE もそうだったんですけど、観光庁が直接観光協会に寄付するとか、そんな制度を利用して観光庁の取組を使って、今年も既に 1 件決まっております、そういう事業も考えております。

今 1 番、町として観光事業でやりたいのが、地域と一体となった観光産業の再生、高付加価値化という事業がございまして。そういう制度が決まれば、旅館さんだとかこれまでかつて止めていたことが、施設を良くしたことによって、単価を上げて価値を高めることによって収入を得ることができるといような事業ですから、これは観光地が何件かまとま

らないと申請できないものですから、6月定例会に、計画づくりのための補助金を観光協会に出して、計画づくりをやって、なんとかこれがもらえれば旅館さん等が大きな事業としてできるのかな、そしてまたそれが町内に循環するのかなってことで、観光庁から直接もらえるようなことをこれまでと違って取り組み始めているということで、いろんな事業の、観光でやっておりますけど、この施設関係も含めて、こういう形の事業に取り組んでいきたいなど。補助金として目に見えないんですけど、交付税ですとか直接観光協会への補助金が出るという制度もございますので、そんなことを含めて経済対策をしていきたいなという風に思っております。

(町民)

ありがとうございます。今日の内容はまた広報などに載ると思いますが、こういう情報は、町民も多分知りたいと思う情報だと思いますので、ぜひ積極的に発信していただければと思います。